

種目（美術）

<div style="text-align: center;">発行者名</div> 採択基準	<div style="text-align: center;">開隆堂（美術）</div>
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 題材ごとに知識や技能に関する目標が示され、巻末には「学びの資料」があり、理解や表現の工夫ができるよう配慮されている。 ・ 多様な表現の作品や制作過程が示され、豊かに発想し構想を練りながら主題を生み出せるよう配慮されている。 ・ 生活や社会の中の美術や美術文化が紹介され、美術を愛好し、心豊かな生活に関心がもてるよう配慮されている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等	<ol style="list-style-type: none"> (1) 題材の様々な展開を示す作品例と、色や形、造形的な特徴などが紹介され、生徒の発達段階や主題に応じた表現ができるよう配慮されている。 (2) 作者や作家の言葉、制作過程が紹介され、生徒が表現の見通しをもち、イメージをふくらめながら、発想や構想につなげられるよう工夫されている。 (3) 「学習の流れ」が示され、生徒作品に添えられた「作者の言葉」から、色や形のイメージがもち、造形的な特徴に気づいて、自己や他者の表現に関心をもって取り組めるよう工夫されている。 (4) 安全面で配慮すべき活動に「！マーク」が示され、写真やイラストで用具や道具の安全な使い方が分かるよう配慮されている。 (5) フォントや色彩の理解にユニバーサルデザインが採用されている。作品の一部が原寸大で掲載され、筆致や絵肌などの細かな表現が分かり、表現が身近に感じられるよう配慮されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価	<ol style="list-style-type: none"> (1) 小学校図画工作から美術へのつながりが「学びの地図」として表され、領域ごとの学びの意義が示され、中学校美術を俯瞰し、系統的に学習できるよう配慮されている。 (2) 題材ごとに鑑賞のページが配置され、生徒が自己の表現を振り返り、自己の表現を拡げたり、他者の作品のよさに気づけたりできるよう工夫されている。 (3) 各題材に「学習のポイント」「学習を進めるためのヒント」が示され、造形的な見方・考え方の視点を与え、自ら追求し、友の表現と関わりながら学習を進めていけるよう配慮されている。 (4) 巻末に技法や美術史の知識理解を深める「学びの資料」が掲載され、ページ下部にある注釈と関連付けられるようにしている。 (5) 立体作品を多方向から写した図版が示されたり、題材ごとに参考となる Web コンテンツを活用できるようにして、制作の過程に応じて表現や理解を深められるようにしている。 (6) 各題材の始めに育てたい資質・能力の三つの柱に関連させた学習の目標が示され、生徒が学びを振り返り、言葉で表現したり、表現の広がりを感じたりできるよう工夫されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校美術の全体像、領域ごとの意義、各題材の目標というように学習活動が整理され系統的に構成されている。 ・ 題材ごと共通の体裁や構成となっており、学び方の習得や主体的で深い学びになるよう配慮されている。

種目（美術）

<p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p style="text-align: center;">光村図書（美術）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巻末には多様な表現や道具、制作の手順も掲載され、生徒が知識及び技能を習得する手助けとなるよう配慮されている。 ・ 各題材で鑑賞活動を設定したり、生徒の制作過程を紹介したりして、生徒が発想や構想を広げられるよう配慮されている。 ・ 作家や生徒の言葉から、美術を愛好し、学んだことを人生や社会に生かそうとする態度を養えるよう配慮されている。
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 図画工作との接続を意識し、各学年での発達段階に応じた材料や道具を取り上げたり、個人差に応じて幅を持たせた表現方法を紹介したりするなど表現しやすいよう配慮されている。 (2) 発想構想の段階では、多様な手立てを写真で例示し、生徒による制作過程を「みんなの工夫」として紹介し、生徒がイメージを膨らめられるよう工夫されている。 (3) 各題材の初めに身近な作品やデザインを示すことで関心を高めさせ、問いかけの言葉で鑑賞活動を促すことで、自分自身や生徒同士の対話を通じた活動ができるよう工夫されている。 (4) 巻末資料の中で、取扱いが危険な道具については、注意喚起マークで注意を促すよう配慮されている。 (5) 題材ごとに写真や図版の配置や構成が統一され、色相環に色名を文字で入れたり、図版の間隔を空けたり、小さい文字はUDフォントを用いたりして配慮されている。
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 1年では身近なものに関わり造形活動を楽しめるようにし、2・3年ではより自分の内面と向き合ったり生活や社会との関係に視野を広げたりできるよう配慮されている。 (2) 各題材において初めに鑑賞を位置づけ、制作の過程でも作品を比較して鑑賞できるように多数の写真が掲載され、題材の最後に鑑賞を再び位置づけ、学びを振り返られるよう工夫されている。 (3) 生徒同士での対話や、多数の作品を比較できる鑑賞などにより、表現や文化の多様性を知り、授業を通して作品に対する見方や感じ方を広げられるよう配慮されている。 (4) 巻末資料に、「材料」「用具」「技法」「形」「色彩」などが細かな項目で分けられ、複数の具体物を例示しながら解説されている。 (5) 学習で扱う和紙を実際にページで使い、風合いを確かめられるようにしたり、Web コンテンツへ導く言葉を定位置に掲載したりして、生徒が実感を伴って学べるよう工夫されている。 (6) 各題材の題材名の下に、造形的な見方・考え方を働かせることに関わる目標が総括的に示され、まとめの鑑賞で目標に示されたことを振り返って考えられるよう工夫されている。
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「美しい」をテーマにして身近な作品を掲載し、生徒に語りかけて鑑賞を促し、美術への関心が高まるよう工夫されている。 ・ 学び合う生徒同士の姿や、生徒の制作過程を多く掲載することで、授業を具体的に想像できるよう工夫されている。

種目（美術）

<p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p style="text-align: center;">日本文教出版（美術）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各題材や用具の扱いについて「学びを支える資料」が各巻末に紹介され、追求をより深めていけるよう配慮されている。 ・ 多くの作品や写真、作者の言葉から見方や感じ方を広げ、造形活動ができるよう配慮されている。 ・ 美術での学びに関連した作家などの言葉にふれ、生活や社会の中で美術を生かし創造できるよう配慮されている。
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;">本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 1 領域の中に、各学年の発達段階に応じた表現活動が紹介され、使用されている材料なども複数取り上げて無理なく表現方法が選べるよう配慮されている。 (2) 生徒の表現の意図や追求の道筋を、「作者の言葉」や制作中の具体的な生徒の姿で紹介することで、新たな発想を得ながら、造形活動が行えるよう工夫されている。 (3) 3 観点の「学びの目標」が、色別のマークでページ上段に表示されており、いつでも主題や表現方法などについて振り返ることができ、主体的・対話的な活動に役立つよう工夫されている。 (4) 巻末には用具の安全な使い方について、図や写真、目立つマークによって視覚的に分かるよう配慮されている。 (5) 題材名、主文はUDフォントを使用し見やすいよう工夫され、中央見開きのページなどでは、美術作品を原寸大に近い大きさと掲載し、創作への意欲が高まるよう配慮されている。
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;">「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 各学年で扱う内容が1冊ずつに示されており、3冊を通して系統立てられた各学年ならではの題材構成で、2年時と3年時の違いが意識できるよう配慮されている。 (2) 図版や写真は学習に応じたものが紹介され、題材の目標の中には、表現活動に鑑賞が含まれている事が分かる記述がされており、表現と鑑賞が一体的に学習できるよう工夫されている。 (3) 各題材のページごと、図版から気づいて欲しい点が問いかけの言葉で「造形的な視点」として設定され、生徒自らが見方や感じ方を広げられるよう配慮されている。 (4) 各冊の巻末に各学年の題材に対応した技法や材料に関する資料が掲載され、思いを具体的に表現できるよう配慮されている。 (5) 実物の大きさや色彩にこだわった図版が多く、また、実物がWebコンテンツで見られるなど、表現の手助けとなるよう配慮されている。 (6) 3 観点到合わせた「学びの目標」により、目標に照らして生徒の追求を振り返られるようにし、学びを次の学習や生活に生かせるよう工夫されている。
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3分冊による学年ごとの題材構成で、大きな図版を用い、生徒が興味をもって主体的に学べるよう工夫されている。 ・ 図版を指した具体的な問いかけで「造形的な視点」が示されており、追求をより深めていけるよう工夫されている。